

孫会社連結(P社による直接保有+S社を通じた間接保有:P社→20%→G社←40%←S社←80%←P社)の仕組み②B4

前提

- G社株式の20%をP社は22,000円で、G社株式の40%をS社は44,000円で何れも平成X2年12月31日に取得した。
従って、G社の資産・負債/収益・費用はP社に20%、S社に40%、G社非支配株主に40%の割合で帰属する。なお、P社はS社を平成X2年12月31日より連結子会社としている為、G社は所謂孫会社である。
- G社は平成X3年度に8,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は1,600円、S社は3,200円、G社非支配株主は3,200円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

平成X2年度G社貸借対照表			
平成X2年12月31日		(単位:円)	
資 産	200,000	負 債	100,000
のれん(P社分)	2,000	P社保有G社株式	22,000
のれん(S社分)	4,000	P社株主に帰属するG社利益剰余金	0
		S社保有G社株式	44,000
		S社株主に帰属するG社利益剰余金	0
		G社非支配株主持分	40,000
	206,000		206,000

平成X3年度G社損益計算書			
自平成X3年1月1日		至平成X3年12月31日	
(単位:円)		(単位:円)	
費 用	100,000	収 益	120,000
のれん償却額(P社分)	400	受取配当金(P社分)	▲ 1,600
のれん償却額(S社分)	800	受取配当金(S社分)	▲ 3,200
G社非支配株主に帰属するG社当期純利益	8,000		
P社株主に帰属するG社当期純利益	2,000		
S社株主に帰属するG社当期純利益	4,000		
	115,200		115,200

平成X3年度G社貸借対照表			
平成X3年12月31日		(単位:円)	
資 産	212,000	負 債	100,000
のれん(P社分)	1,600	P社保有G社株式	22,000
のれん(S社分)	3,200	P社株主に帰属するG社利益剰余金	2,000
		S社保有G社株式	44,000
		S社株主に帰属するG社利益剰余金	4,000
		G社非支配株主持分	44,800
	216,800		216,800

S社株主に帰属するG社当期純利益4,000円をS社株主に按分する為、S社損益計算書に振替を行う。

S社株主に帰属するG社利益剰余金4,000円をS社株主に按分する為、S社貸借対照表に振替を行う。

前提

- S社株式の80%をP社は180,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、S社の資産・負債/収益・費用はP社に80%、S社非支配株主に20%の割合で帰属する。
- S社は平成X3年度に20,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は16,000円、S社非支配株主は4,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

平成X2年度S社貸借対照表			
平成X2年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	356,000	負 債	200,000
G社に対する持分(40%)	(40%)	P社持分(80%)	(80%)
S社保有G社株式	44,000	P社保有S社株式	180,000
S社株主に帰属するG社利益剰余金	0	P社株主に帰属するS社利益剰余金	0
のれん	20,000	S社非支配株主持分	40,000
	420,000		420,000

平成X3年度S社損益計算書			
自平成X3年1月1日		至平成X3年12月31日	
(単位:円)		(単位:円)	
費 用	100,000	収 益	196,000
のれん償却額	4,000	S社株主に帰属するG社当期純利益	4,000
S社非支配株主に帰属するS社当期純利益	20,000	受取配当金(P社分)	▲ 16,000
P社株主に帰属するS社当期純利益	60,000		
	184,000		184,000

平成X3年度S社貸借対照表			
平成X3年12月31日		(単位:円)	
資産(S社保有G社株式以外)	432,000	負 債	200,000
G社に対する持分(40%)	(40%)	P社持分(80%)	(80%)
S社保有G社株式	44,000	P社保有S社株式	180,000
S社株主に帰属するG社利益剰余金	4,000	P社株主に帰属するS社利益剰余金	60,000
のれん	16,000	S社非支配株主持分	56,000
	496,000		496,000

(借)G社に対する持分は(貸)P社持分/S社非支配株主持分に按分する。
∴G社資産・負債の40%とのれん(S社)が8:2の割合で各持分に帰属する。

※ 連結財務諸表作成に当たっては、黒太字の科目・金額を集計します。従って、G社財務諸表とS社財務諸表のP社株主に帰属する当期純利益・利益剰余金は、共に集計の対象です。

なお、G社のS社株主に帰属する当期純利益4,000円・利益剰余金4,000円はS社において再度按分される為、集計の対象にはなりません。従って、太字では表示していません。

因みにこれらS社株主に帰属する当期純利益4,000円・利益剰余金4,000円は単純合算後の財務諸表において貸借相殺されます。同様に連結集団が保有する子会社株式・孫会社株式についても貸借相殺されます。

孫会社連結(P社による直接保有+S社を通じた間接保有:P社→20%→G社←40%←S社←80%←P社)の仕組み②B4 練習用②

前提

- G社株式の20%をP社は22,000円で、G社株式の40%をS社は44,000円で何れも平成X2年12月31日に取得した。
従って、G社の資産・負債/収益・費用はP社に20%、S社に40%、G社非支配株主に40%の割合で帰属する。なお、P社はS社を平成X2年12月31日より連結子会社としている為、G社は所謂孫会社である。
- G社は平成X3年度に8,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は1,600円、S社は3,200円、G社非支配株主は3,200円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

平成X2年度G社貸借対照表				平成X3年度G社損益計算書				平成X3年度G社貸借対照表									
平成X2年12月31日				自平成X3年1月1日至平成X3年12月31日				平成X3年12月31日									
(単位:円)				(単位:円)				(単位:円)									
資	産	200,000	負	債	100,000	費	用	100,000	収	益	120,000	資	産	212,000	負	債	100,000

前提

- S社株式の80%をP社は180,000円で平成X2年12月31日に取得した。従って、S社の資産・負債/収益・費用はP社に80%、S社非支配株主に20%の割合で帰属する。
- S社は平成X3年度に20,000円の剰余金の配当を行った。その結果、P社は16,000円、S社非支配株主は4,000円を受取っている。
- のれんは発生年度の翌年から5年間で每期均等償却を行う。

【連結修正後財務諸表(平成X2年度末~平成X3年度末)】

平成X2年度S社貸借対照表				平成X3年度S社損益計算書				平成X3年度S社貸借対照表							
平成X2年12月31日				自平成X3年1月1日至平成X3年12月31日				平成X3年12月31日							
(単位:円)				(単位:円)				(単位:円)							
資産(S社保有G社株式以外)	356,000	負	債	200,000	費	用	100,000	収	益	196,000	資産(S社保有G社株式以外)	432,000	負	債	200,000